

沼田^{ぬまた}2遺跡

遺跡番号 平成11年度登録
調査回数 第1次
所在地 村山市大字土生田4040他
北緯・東経 北緯38度32分51秒・東経140度23分16秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設事業
調査面積 3,700㎡
現地調査 平成22年5月19日～11月26日
調査担当者 渡辺和行（現場責任者）・池田透・後藤枝里子・高柳俊輔
調査協力 東日本高速道路株式会社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 縄文時代・平安時代
遺構 柱穴・土坑・^{おとしあな}陥穴・溝跡・沼跡
遺物 縄文土器・石器・須恵器・土師器・金属製品（文化財認定箱数：5箱）



図1 遺跡位置図(1:50,000)

調査の概要

沼田2遺跡は国道13号及びJR袖崎駅の西に位置している。遺跡の西に沢の目川が流れ、北に赤石・高玉地区がある。遺跡の周辺は田畑が広がり、沼田2遺跡も調査前まで畑地として利用されていた。今回、東北中央自動車道建設に伴って、遺跡の中央部を調査することとなった。

まず、遺構や遺物の検出状況を確認するためトレンチ調査を行った。その結果を受けて遺跡範囲の北側を面的に調査することとなった。

遺構

主に縄文時代と平安時代の遺構が検出された。縄文時



図2 溝跡遺物出土遺物出土状況

代の遺構として、^{おとしあな}陥穴・土坑・ピットが検出されている。
^{おとしあな}陥穴（図4）は5基確認されており、いずれも^{さかもぎ}逆茂木が設置されており、下層には火山灰と考えられる層が堆積していた。この火山灰に関して分析を委託しており、陥穴の年代を考える一助となることを期待している。ま

た、四角の壁に凹凸があり、何らかの構造物が設置されていた可能性がある。5基は列を成して調査区の北東端から南西側に向かって配置されている。その先には沼跡と考えられる遺構があり、水を飲みに来る動物たちを捕まえるために設置されていたのであろう。

沼跡と考えられる遺構の上面には火山灰が層として堆積していた。それが915年の十和田火山灰だとすればこの沼は1100年前には埋没していたといえる。火山灰層の下層から石錘せきすいが出土している。魚を捕るために使用し、破損したために捨てられた可能性が高い。

その他の土坑やピットについての詳しい用途は不明である。土坑の一部は貯蔵穴であった可能性がある。しかし検出面から遺構底面まで30cm程度と一般的な貯蔵穴遺構と比べて浅く、確実なことはいえない。

それらの遺構から遺物が出土している。主に今から3000年～2500年前の縄文時代後期・晩期の土器だと考えられる。文様は縄目以外あまり見られず、粗製土器と呼ばれる煮炊きに使用されていた土器がほとんどといえよう。

平安時代の遺構として、溝跡（図2）が検出されている。調査区を東西に横断している状態で検出されており、西側にある沼跡との関連が考えられる。排水用の溝という可能性が高い。溝の底面に砂等の堆積物がないため緩やかな流れであったといえる。もしくは溝内の掃除を行っていた可能性もある。破片であるが多くの遺物が出土している。

その他に詳しい時代は不明ながら柱を抜き取った痕跡のある柱穴が検出されている。一部は前述の溝を切って掘られているため溝よりは新しい年代であることが伺える。しかし、それらは建物跡を構成することがなく単体で存在しており、用途についての検証を要する。

縄文時代や平安時代の遺構はいずれも調査区の北側に集中していた。南側にはあまり当該期の遺構が存在せず、近代の畑として利用された時の痕跡が多くみられた。

遺物

主として縄文土器（後期・晩期）や石器が出土しており、少量ながら早期から中期の土器も出土している。また、僅かながら須恵器の環の口縁が出土している。この遺物が出土しているのは前述の溝からである。中世の遺物の出土はない。

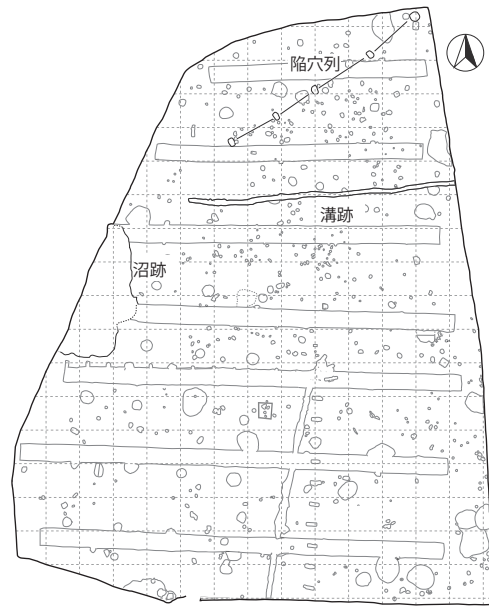


図3 遺構配置図（1/800）



図4 陥穴

まとめ

今回の調査で当遺跡の土地利用の変遷が確認出来た。縄文時代の中でも陥穴おとしあなが存在した時期は森林であり沼跡周辺は石錘の出土も考慮すると狩猟場であったといえる。

後期・晩期には土器の出土状況も踏まえると集落の縁辺、もしくは何らかの作業場になっていたと考えられる。平安時代にも居住域から離れた場所であったとはいえ、溝が排水用だとすると東側に集落があった可能性が高い。その後、柱を必要とする施設が作られ近現代には農地として利用されていったことがみられた。